

指導ポイント

繰り下がりのあるひき算

繰り下がりのあるひき算には、次のような2つの方法があります。

I かきが13こ なって います。
9こ とると、なんこ のこりますか。

減加法 13 - 9 (13を10と3に分解)

10から 9を ひいて 1 (10 - 9 = 1)

3と 1で 4 (3 + 1 = 4)

減減法 13 - 9 (9を3と6に分解)

13から 3を ひいて 10 (13 - 3 = 10)

10から 6を ひいて 4 (10 - 6 = 4)

ひいてからたすので「減加」、ひいてさらにひくので「減減」というわけです。

減加法では、ひき算なのに、たすことが入っているという難点があります。一方、減減法では、ひかれる数の一の位に合わせてひく数を分解することが必要で、このことが難しいといわれています。

指導では、どちらの方法が児童にとってわかりやすいか意見の分かれるところですが、一般には、減加法のほうが計算しやすく、定着をはかりやすいといわれています。啓林館の教科書では、減加法で指導します。2年で指導される21 - 8などの計算も減加法です。ただし、計算の方法として減減法が児童から出てきたときは、認めてやるのが大切です。

また、素朴な方法として、例えば11 - 8を10, 9, 8, …… , 3と数え引きによって求める方法があります。児童の中には、この方法に固執する者もいると思われる。認めてやり、徐々に減加法に移行するようにすればよいでしょう。

